令和２年度第２回佐伯市総合教育会議

１　日　時　　令和３年２月18日（木）13時30分～15時25 分

２　場　所　　佐伯市役所５階庁議室

３　出席者　　（構成員）

　　　　　　　　　　　　佐伯市長　　　　　　　田中　利明

　　　　　　　　教育委員会

教育長　　　　　　　　宗岡　功

　　　　　　　　　　　　教育委員　　　　　　　米倉　ゆかり

　　　　　　　　　　　　教育委員　　　　　　　岩佐　礼子

　　　　　　　　　　　　教育委員　　　　　　　平井　國政

　　　　　　　　　　　　教育委員　　　　　　　小寺　香里

（関係者）

　　　　　　　　　　　　ブランド推進課総括主幹　泉　志保

　　　　　　　　　　　　志縁や　　　　　　　　柴田　真佑

　　　　　　　　　　　　大分県立佐伯鶴城高等学校

　　　　　　　　　　　　　校長　　　　　　　　志賀　信幸

　　　　　　　　　　　　日本文理大学附属高等学校

　　　　　　　　　　　　　校長　　　　　　　　田中　英明

　　　　　　　　　　　　大分県立佐伯支援学校

　　　　　　　　　　　　　教頭　　　　　　　　宇留嶋　伸明

　　　　　　　　　　　　大分県立佐伯豊南高等学校

　　　　　　　　　　　　　教頭　　　　　　　　石井　圭一郎

　　　　　　　　　　　　教育部長　　　　　　　渡邉　和彦

　　　　　　　（事務局）

　　　　　　　　　　　　総合政策部長　　　　　高原　常彰

　　　　　　　　　　　　政策企画課長　　　　　植田　実

　　　　　　　　　　　　政策企画課総括主幹　　末永　健二

　　　　　　　　　　　　政策企画課副主幹 　　神﨑　陽子

【要旨】

４　市長あいさつ

　（市　　長）皆さんこんにちは。

　　　　　　　本日は、たくさんの御出席をいただきありがとうございました。総合教育会議は、平成28年度から始まり、年１回で行ってまいりましたが、私が市長となり年２回となり、産業教育等様々なテーマで会議を行ってまいりました。議長の私が中心となり、総合的な教育のあり方を模索しているところであります。本日のテーマは、さいきオーガニック憲章でありますが、オーガニックは、語源は、「本来の」、「源」、「有機」という意味で使われておりますが、オーガニックシティ、オーガニックに根差したまちづくりを目指しています。そこに、オーガニックの人生観や世界観を含め、昨年３月にオーガニック憲章を制定したところであります。世界最大の農薬立国である日本で、食の安全・安心を考え、食の部分だけでなく、自然や社会との調和を図りながら持続可能なまちづくりをやっていく。こういった目標のもと、オーガニック憲章を制定し、最終的にオーガニックシティ、そして人材を創るということが、我々のテーマとなっております。今回は、オーガニック憲章に携わった、「志縁や」の柴田真佑氏にお越しいただいております。市の職を投げうってでもやるんだ、という志を持った方が講師となっております。今後、小中学校にタブレットを活用したデジタル教育を進めてまいりますが、デジタルの前に、人間、心の教育が重要となっております。「人が学び・人が活き・人が育つ教育の創生」を総合計画の基本政策にも掲げております。皆様からの忌憚のない御意見を賜りたいと思います。本日はよろしくお願いいたします。

５　議　題　　さいきオーガニック憲章について

　（市　　長）それでは、まずはオーガニック憲章の概要説明を、ブランド推進課の泉総括からお願いします。

　（泉 総 括） 皆さんこんにちは。佐伯市ブランド推進課の泉志保と申します。私は、このオーガニック憲章制定にも関わり、当時の上司が講師の柴田氏になります。民間の方々や食育推進会議の皆様から御協力いただいて作った憲章について、今回説明しますが、皆様の中にキーワードが残ればいいなと思います。

　　　　　　　【プロジェクタスクリーンによる説明】

　　　　　　　　・オーガニック憲章ロゴマークについて

　　　　　　　　・さいきオーガニック憲章って何？

　　　　　　　　　　衣食住、ライフスタイル全般に関わる

　　　　　　　　　　佐伯版ＳＤＧｓ

　　　　　　　　・憲章制定までの経緯

　　　　　　　　・行政の取組事例

　　　　　　　　　　巣立つ君たちへの自炊塾（3/14、3/25）

弁当の日

　　　　　　　　　　さいきオーガニック推進大会、オーガニックまるしぇ

　　　　　　　　・民間団体の取組事例

　　　　　　　　　　あまべ文化研究所

　　　　　　　　　　山口タカ氏（佐伯市出身）オーガニックの第一人者

　　　　　　　　・日本初のオーガニック憲章の制定

　　　　　　　さいきオーガニック憲章には、「みんながつながることをします」とあります。色々な方々がひとつになって進める取組になります。これから柴田氏にバトンタッチします。

　（市　　長）それでは、柴田氏から講演をいただきたいと思います。

　（柴田講師） 皆さんこんにちは。昨年市を退職し、道の駅やよいの目の前に、店を出しています。私は、食育活動と、被災地支援活動を10年ほど行っております。東日本大震災の後「暮らしつなぎ隊」というボランティアグループを立ち上げ、活動しております。東日本大震災の現場には33回行きました。平成20年に「食のまちづくり条例」を制定しました。私が弥生町役場で児童福祉に携わっていた時代の事例紹介をします。

・平成８年12月23日の出来事

　　　　　　　　・「食のまちづくり条例」制定の経緯

　　　　　　　　　子どもが作る弁当の日の取組

　　　　　　　　　弁当の日を普及した竹下和男氏の言葉「子どもは置かれた環境に即応して育まれる」

　　　　　　　　・書籍紹介『方円の器』友道健氏氏

【プロジェクタスクリーンによる講演】

　・オーガニックレストラン認証について

　・オーガニックの商品開発について

　・新聞記事等紹介

　・「医は食に　食は農に　農は自然に学べ」

　・「巣立つ君たちへの自炊塾」映画の動画紹介（3/14試写会）

ありがとうございました。

６　意見交換

　 （市　　長）ありがとうございました。皆さんから御意見御感想があればお願いします。

（米倉委員）家族の形態はまだ佐伯には残っていると思いました。親が子どもに出来ることは「食」くらいしかないと思いました。

（平井委員）オーガニック憲章は最初意味がわかりませんでした。企業の立場から言うと、ＳＤＧｓは非常に厳しいです。海運業をしていますが、海外に停泊時バラストタンクから海水を放出すると世界の生態系が壊れます。バラスト装置できれいにして流すんです。企業の自己調達になりますが、これが何千万もします。ＳＤＧｓで企業は苦しんでいます。脱炭素社会を目指しているが、ガソリン車はなくなっていきますが、自動車だけでなく、船にも影響があります。業界では2030年問題と言っています。小中学校の教材にＳＤＧｓの項目はほんの少ししかなく、びっくりしました。教育からしっかりやって欲しいです。言葉だけでなく、社会への影響を教育して欲しいです。具体的に佐伯市が何をするかを示して欲しいと思います。

（市　　長）示唆に富んだ内容でした。佐伯市もオーガニック憲章で60の施策を取り上げています。これをどう実行するか。総合行政の課題としています。ローカルでありながらグローバルな子どもをつくることが、我々の課題です。ありがとうございました。

（植田課長）市長は所用により、ここで退席させていただきます。

　　　　　　～市長退席により議長交代～

（宗岡教育長）市長が急遽退席ということで、議長を交代します。それでは引き続き御意見をお願いします。

（小寺委員）私は３児の母ですが、柴田氏の講演に心を痛めながら聞きました。教壇に立っていた頃、心配な子どもがいたことなどを思い出しました。「志縁や」さんの商品は、顔が見える商品だと思いました。心や、一瞬の価値を大事にしたいと思います。地域に生きる子どもたちの環境をどう作ってあげられるかを考えることが大事です。佐伯は高齢者も多いので、紙媒体で紹介して欲しいと思います。子どもには易しい言葉で説明して欲しいです。地域のメディアも活用してはどうでしょう。自然と人が共存した佐伯版ＳＤＧｓを成功させて欲しいと思います。

（柴田講師）オーガニック憲章に「心や体がよろこぶことをします」とありますが、全てがつながっています。平井委員からの経済の御意見にもありましたが、食に限らず、環境や自然、全てがつながっているんです。子どもたちにもそれを伝えていきたいと思います。見えないものこそ大事にしたいと思っています。除菌・殺菌の風潮にありますが、「菌ちゃん野菜づくり」も見えない「菌」を大事にする取組の一つです。

（岩佐委員）途上国に15年住んでいました。日本の生活に違和感を持っていた時期があります。途上国の男性は皆、料理ができます。親の手伝いを日ごろからしているからです。日本は学歴社会で、私も親から「何もしなくていい、勉強だけしろ」と言われていました。人間の本来の力を全く発揮できていないと思います。親から子、孫への継承が家庭の中にはあったと思います。今の便利な物には、サステナブルでないものが多いです。本来親から学ぶべきことを学校で教えなければいけない時代になっています。大人が意識を変えて、仕組みを変えていかないといけないと思います。

（宗岡教育長）本日は校長先生方もお見えになっているので、時間が限られていますが、御意見を伺いたいと思います。

（志賀校長）個人的に環境問題に首を突っ込んで30年になります。色々な運動をしてきました。農業もしています。大豆製品と牛乳と肉以外はほとんど賄っています。個人的にはオーガニックはあきらめました。何年か命がけでやらないとできないからです。害虫、病気との戦いでした。裕福でない人ができるのだろうかと思いました。ＳＤＧｓは地球規模でマクロ的に見れば、人類が生き残る最短の方法ということでやっていると思いますが、なぜ経済が現状こうなっているかというと、トータルでその方がうまく行くからです。ＳＤＧｓで経済がうまく回るなら、放っておいてもその方向に進みます。佐伯市でＳＤＧｓを本気で進めていくなら、それなりの犠牲を覚悟した上で、これを進めつつ、かつ、一般の人の生活が成り立つ土台を常に考えないと厳しいです。企業は逃げて行きます。今の社会の現状を踏まえ、もう一歩上を行く生活様式を実現するには、何をどうすれば良いかを行政で考えるべきです。鶴城高校では、弁当の日の取組をしています。ＳＳＨもＳＤＧｓを土台にしていますが、この取組がどう彼らの将来に結びついていくのかを言えずにいます。行政も、やるなら覚悟を決めてやっていく必要があると思います。

（宗岡教育長）ありがとうございました。時間の都合で、全員の御意見を伺うことができません。申し訳ございません。最後に私から一点お願いです。市報にもありますが、学校でも様々な取組をしています。学校で教員や子どもに意識付けをしていきたい。17のＳＤＧｓのアイコン、オーガニック憲章の５つのアイコンを作って欲しいです。学校でやっている活動がどう結びついているかを認識するためにも、お願いします。それでは、これで令和２年度第２回佐伯市総合教育会議を閉会します。ありがとうございました。

（15:25終了）